

# 第3回周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会 議 録

日 時：平成28年11月1日（火）

場 所：周南市役所 第2応接室

## 【会 議 次 第】

1 開 会

2 議 事

(総合戦略) 推進施策に関する進捗状況の検証について

3 閉 会

◀ 配付資料 ▶

- ・ 周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る進捗管理及び施策評価

## 第3回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

- 日 時 平成28年11月1日（火） 14時から
- 場 所 周南市役所 第2応接室
- 出席者 ・委員 7名  
石川 英樹、河田 正樹、久野 耕一郎、岡田 浩、  
細川 英樹、山根 耕太郎、岩淵 吉男
- ・事務局 5名  
政策推進部長 増本 俊彦、政策推進部企画課 課長 高木 一義、  
課長補佐 中村 貴子、企画担当係長 富永 将介、主査 中村 成孝
- 資 料 ・会議次第のとおり

### 会 議 議 事 録

#### 1 開 会

#### 2 議事

##### （総合戦略）推進施策に関する進捗状況の検証について

- 会長 先週水曜日に引き続きまして、総合戦略に関する推進施策の進捗状況の検証を一つずつ行っていきます。前回の会議では、評価・検証のやり方に慣れるまで、あまり馴染みがない基本目標1を飛ばして評価・検証を行いましたが、本日は基本目標1に戻っていただき、この分野から評価していきたいと思います。
- 前回と同じ要領で、推進施策ごとに事務局から説明していただき、一つずつ評価していきます。
- それでは、基本目標1推進施策（1）「港湾基盤強化の促進」について、事務局から補足説明をお願いします。
- ◇事務局 ～基本目標1（1）について説明～
- 会長 アクションプランの「国際バルク戦略港湾推進事業」と「T10号埋立事業」が平成27年度事業不採択になっていますが、このあたりの補足説明をお願いします。
- ◇事務局 国際バルク戦略港湾に指定されておりますが、国に対して予算要望も行ってはいますが、予算が認められなかったという意味での事業不採択です。平成28年度は予算化され、事業に取りかかっている状況です。
- 会長 2つの航路とは具体的にどういったものですか。

◇事務局 徳山西航路と南陽航路になりますが、大水深化に向け、徳山下松港港湾計画が改訂され、計画されている航路の水深や幅が見直されました。改訂された計画では、徳山西航路の水深が14mから18mへ、南陽航路の水深が12mから14mへと見直されたことにより、さらなる大型船舶の入港が可能になり、輸入石炭のコスト削減が図られ、今後もコンビナート企業が立地し続けやすい環境をつくることで、安定的な雇用を確保していきたいという狙いです。

港湾事業は国の直轄事業になりますので、コンビナート企業と連携して、国や県に働きかけを行うことや、事業に対する負担金の拠出などが主な取組みとなってきます。

地域資源である港湾の維持や地元コンビナート企業の存続が、本市にとっても最大の強みになると思われまますので、総合戦略の雇用を確保していく施策の中に組み込んでおります。

●委員 KPIの設定は難しかったですよね。この施策は需要というよりは供給ですよ。市が直接進めるのではなく、港があるから進める。前提条件の様なものですよ。

◇事務局 確かに、この推進施策は特殊なものです。しかし、逆を言えばこれが周南市の特色とも言えます。

企業などと連携し、事業効果などをしっかり組み立てて、国へ対して要望を行うことにより、事業の早期完成が見込まれますので、積極的に総合戦略へも掲載しております。

○会長 港湾とセットで、各インフラが整備され、多少広域的になっても輸送プランに組み込んでもらうことが前提にあると思います。そのためのインフラ整備であり、企業への働きかけも行われ、インフラ整備が完成すれば利用したいというニーズはあるわけですよ。

◇事務局 そうですね。それが大前提で動いており、コンビナート企業と連携して協議会なども設立し色々取り組んでいます。コンビナート企業は大量の電気を使用されるため、かなりの電力を自家発電されていますが、その（燃料となる石炭）コストが下がることにより、安定した操業や製造品単価の抑制につながり、その結果として国内需要を支えていくことが大きな狙いです。

○会長 一つのハブ、枠組みを作るという大きな話ですが、施策の効果がすぐに見えて、それを図るということは難しいと思います。そうした枠組みを作るということを総合戦略に掲載していること自体を直接評価するということで良いのではないかと思います。

○会長 他にご意見がなければ、評価をまとめたいと思いますが、「A」評価という判断も難しいと思います。

●委員 「A」評価としたいところですが、事業不採択で予算がつかなかったことか

らも「A」評価は付けづらいと思います。数値に現れない取組みは行ってきている訳ですから、数値ではなくて「D」評価で良いのではないかと思います。

○会長 「B」評価という考え方もあると思います。

◇事務局 今後、施策効果が現れるという評価がいただければ、平成 27 年度は事業不採択でしたが、しっかりと取組みを進めていきたいという思いがあります。

●委員 今後の成長に期待しますか。

○会長 他にご意見がないようでしたら「B」評価とさせていただき、特別な評価理由などはなかったもので、事務局に今までの意見をまとめていただきたいと思います。

○会長 次に、基本目標 1 推進施策 (2)「企業立地の促進」について、事務局から補足説明をお願いします。

◇事務局 ～基本目標 1 (2) について説明～

●委員 事業所設置奨励金制度を実施され、平成 27 年度 K P I としては 9 件の目標値に対して 14 件の実績となっており、大きな成果が上がっていると思います。

当然、事業所が増えなければ、雇用が増えないということで有効な施策と判断していますが、この制度の概要について詳しく説明をお願いします。

◇事務局 市内に立地する企業が一定規模以上の設備投資をされた場合、償却資産として固定資産税が増額となりますが、その増額部分のうち（中小企業の場合）最大 1 億円を上限に、3 年間補助金として交付を行うなどの制度です。

K P I の実績値が増えている要因は、企業の設備投資もありましたが、雇用奨励補助金として、事業所設置・増設に伴う新規雇用に対しても補助金を交付しています。

企業が多く立地する自治体では、同様の制度を設けている所もありますが、そうした企業の設備投資や新規進出を促していく制度になります。

●委員 評価欄に「平成 28 年 5 月に大企業の本社機能移転も決定した」とありますが、(株) トクヤマのことですか。

◇事務局 そのとおりです。

●委員 この施策が、(株) トクヤマの本社機能移転に何らかの影響を与えたということですか。

◇事務局 企業立地促進事業とは少し異なるのですが、国は地方創生への取組みの中で、東京にある本社機能を地方へ移転した企業に対し、税制優遇等を行う制度を創設しました。

昨年度、(株) トクヤマからも問合せはありましたが、山口県や本市も、国の制度に関連した本社機能移転を支援する制度を新たに創設しました。

そうした流れの中、本市としても企業の設備投資を促す制度とは別に、東京をはじめとした大都市圏からの本社機能移転を誘発する支援制度を創設し、企

業誘致を図っているところです。

- 委員 結果的に、本社機能移転により雇用は何人増加したか分かりますか。
- ◇事務局 本社機能の移転なので、新たな雇用が増えた訳ではありませんが、約 30 名の従業員の方が移って来られたという状況です。
- 会長 平成 27 年度はその制度設計をされたということだと思いますが、現在は制度設計が終わり、運用されているということでしょうか。
- ◇事務局 そのとおりです。平成 27 年度は制度設計のため、目標値と実績は 0 件ですが、今年度は制度運用しており、新たな誘致に動いている状況です。
- 会長 その他、ご意見はございますか。ご意見がないようでしたら、評価としてまとめていきたいと思えます。
- K P I などの達成状況からすると「A」評価に該当すると思えますが、いかがでしょうか。
- 委員 (全員、異議なし)
- 会長 特に異論がないようですので「A」評価とさせていただきます。また評価理由などについては、事務局にまとめていただきたいと思います。
- 会長 次に、基本目標 1 推進施策 (3)「新事業・新産業の創出」について、事務局から補足説明をお願いします。
- ◇事務局 ～基本目標 1 (3) について説明～
- 委員 「未来のクリーンエネルギーとして期待が高まる水素が大量に発生している」とありますが、これはコンビナート企業が製品をつくる過程で副産物的に発生しているということですか。
- ◇事務局 そのとおりです。苛性ソーダ等を生成する過程で、副産物として発生している水素を利活用していこうという取組みです。
- 会長 この推進施策にも、事業所設置奨励金がありますが、先ほど説明いただいた奨励金とは別枠で実施されているということですか。
- ◇事務局 先ほどの事業所設置等奨励金の事業者指定要件の一つとして重点立地促進事業という要件があるのですが、それに該当した事業所が昨年度 1 件ありました。この推進施策は、特に水素などの新産業創出に着目したもので、水素の利活用を目指す企業の進出や地元企業の新しい取組みを支援していくことにより、新たな雇用を生み出していくという狙いです。
- 委員 水素自動車の登録台数が 12 台となっていますが、市役所と(株)トクヤマ以外にどなたが所有されていますか。
- ◇事務局 市内で 8 台、トヨタカローラやトヨペットなどが保有されています。また山口県が 1 台、県外企業 2 台、県外個人が 1 名となっています。
- 会長 主要事業「新事業・新産業創出支援事業」の実績が 1 件となっていますが、水素関連以外の企業なのではないでしょうか。

- ◇事務局 重点立地促進事業の指定に該当しているのは、日本ゼオンのトナー研究棟になります。
- 会長 他にご意見等はございますか。K P I などを見ると概ね目標値を達成しているようですが、「A」評価ではないような気がします。
- 直接、雇用の増加を計るK P I（重点立地促進事業の指定件数）の目標値2件に対して、実績1件という結果を重視すると「B」評価で良いと考えますが、いかがでしょう。
- 委員（全員、異議なし）
- 会長 特に異論がないようですので「B」評価とさせていただきます。
- 会長 次に、基本目標1推進施策（4）「6次産業化の推進」について、事務局から補足説明をお願いします。
- ◇事務局 ～基本目標1（4）について説明～
- 会長 K P I の「総合化事業計画」について補足していただければと思います。
- ◇事務局 六次産業化法では、農林漁業者が経営の改善を図るための「総合化事業計画」の認定制度が設けられており、農林漁業者が農林水産物等の生産及びその加工又は販売を一体的に行う事業活動のことを「総合化事業」といい、その事業活動の計画を「総合化事業計画」といいます。
- この施策は、六次産業化法に基づく事業を行っていくもので、その認定を受けることにより、国からの支援も受けられると思われまますので、そうした取り組みを増やしていこうとするものです。
- 会長 認定を受けると色々と支援が受けられるということですね。
- ◇事務局 色々と有利な資金活用も含め、それに該当してくる制度です。
- 委員 数値目標「市内就業者数」が平成27年度から平成28年度にかけて457人増えていますが、6次産業化推進事業のみでここまで増えるのですか。
- ◇事務局 内訳までは把握していませんが、市内全体の就業者数になりますので、農業分野も含めた全体の数になります。
- 会長 今後、6次産業化が進んだ場合、会社設立や法人化などに結びついた件数などが、補助データとしてあれば、評価・検証しやすいですね。
- 委員 K P I は累計値ですか。
- ◇事務局 累計値です。総合化事業計画の認定が難しい面もあるそうで、目標値もなかなか伸ばせない現状があります。
- 委員 一度認定されれば、認定は継続されるのですか。
- ◇事務局 総合化事業計画の更新により、継続して認定を受けることが出来ます。
- 会長 その他、ご意見はございますか。ご意見がないようでしたら、評価としてまとめたいと思いますが、K P I などの達成状況からすると「B」評価に該当すると思いますが、いかがでしょう。

- 委員 (全員、異議なし)
- 会長 特に異論がないようですので「B」評価とさせていただきます。
- 会長 基本目標2と3につきましては、前回、評価を終えていますので、基本目標4「賑わいと活力を実感できるまち」の推進施策(1)「中心市街地を核とした魅力あるまちづくりの推進」について、評価を行います。
- 事務局から補足説明をお願いします。
- ◇事務局 ～基本目標4(1)について説明～
- 委員 空き店舗率はどのように算出するのですか。平成27年度の目標値が10%に対して平成31年度の目標値が12%になっていますが。
- ◇事務局 担当課に確認しましたところ、目標値を設置したのが一昨年になりますが、その時点で、空き店舗数としてカウントした数は、貸し出している「空き店舗」の数を分子としていました。
- 昨年、再度空き店舗数を数え直した際に、今は貸し出していなくても、空いている「店舗」は空き店舗としてカウントするべきだとなり、分母・分子ともに変わってきています。
- 平成27年度目標値は既に設定していたため変更せず、平成28年度以降については、新しくカウントし、増えた空き店舗数を分母・分子として切り替えたため、平成27年度の目標値と平成31年度の目標値が逆転している現象が起きています。
- 会長 平成27年度の目標値だけがおかしかったということですね。
- ◇事務局 そのとおりです。平成27年度目標値の算定根拠だけが異なっていることになります。
- 会長 新しい算定根拠で計算し直したとしても、平成27年度の実績19.9%は厳しい結果となっていますね。
- 委員 銀座とみなみ銀座の再開発事業は関係していないのですか。あの事業は平成31年度完成でしたか。その結果によっては、空き店舗の分母が変わってくると思いますが。
- ◇事務局 確かに変わってきます。しかし、現時点でカウントできる空き店舗をベースに考えていますので、将来、本当に再開発が進んでいくのか不明ですが、それを見込んだ目標値にはなっておりません。
- 委員 目標値にあまり意味がないということですね。
- 会長 再開発事業が現実味を帯びてきたら、目標値を見直さないといけないかもしれませんね。
- 委員 参考情報でもよいので、事業所数の実数を捉えていないと意味がないと思います。例えば、1階だけに入店し、2階以降が空いているビルがあったとして、そのビルが取り壊された場合、分母が減ったために空き店舗率は改善すること

もありますので、実際の店舗数を把握していないと賑わいを図る指標には結びつかないかもしれません。

◇事務局　ご指摘のとおり、そうした点に着目した参考データも必要と考えておりますので、次年度以降、委員の皆さんにお示しできるように準備したいと考えております。

○会長　主要事業やアクションプランについては、参考程度とし、データにあまり振り回されないように評価していきたいと思います。

○会長　その他ご意見はありますか。

●委員　フェリーターミナル再編事業は、ターミナルの改修だけで、フェリー航路の見直しなどは全く予定されていないのですか。

◇事務局　フェリー航路については、色々な方々からもご意見をいただきますが、行政として航路を決めることはできませんが、航路変更などの要望が多いようなら、民間企業への働きかけは必要だと考えています。

○会長　他にご意見等はございますか。ご意見がないようでしたら、評価をまとめていきたいと思いますが、K P Iなどは目標値を達成していない状況ですし、「A」評価ではなく「B」評価で良い気がしますが、いかがでしょうか。

●委員　（全員、異議なし）

○会長　特に異論がないようですので「B」評価とさせていただきます。主要事業やアクションプランにつきましては、先ほど申し上げた対応をよろしく願います。

○会長　次に、基本目標4推進施策(2)「観光交流の促進」について、事務局から補足説明をお願いします。

◇事務局　～基本目標4(2)について説明～

●委員　主要事業にもある温泉観光振興について取り掛かりが遅いように感じますが、まだ準備をしなければならないものがあるのですか。もし、5年間である程度成果を出すなら、計画策定には取り掛かっても良いと思いますが。

◇事務局　総合戦略策定の時点では、担当課も湯野・鹿野・三丘温泉を利活用した取組みを考えていましたが、老朽化した湯野荘の存続や、土砂災害指定区域の石船温泉の立地など、検討課題が多すぎるため「温泉地域観光振興計画」の策定は実質ストップしています。

総合戦略策定時は、今後5年間で取り組んでいきたいと説明させていただきましたが、施設自体の課題や立地場所に課題が多くあり、それを精査・見直していく必要があると考えていますので取組みをストップしている状況です。

○会長　徳山動物園の入園者数がK P Iになっていますが、主要事業「ズー夢アップ21事業」以外に、動物園のリニューアル事業も踏まえて目標値を設定されているのですか。

- ◇事務局 入園者数の目標値は、動物園リニューアル事業も前提として設定しています。
- 会長 かなり動物園の様子が変わると思いますが、それを考慮すると平成 31 年度の目標値は奥ゆかしい数字になっていませんか。
- ◇事務局 動物園は、今後まだ約 10 年かけて、少しずつリニューアルしていく予定ですので、一気に入園者が増えるという目標は立てにくいため、徐々に入園者が増えていくという設定になっています。
- 委員 主要事業に「市の強みを生かした新たなイベントの開催」とありますが、新たなイベントとは何か出来るのですか。
- ◇事務局 平成 28 年度につきましては、「はつらつママさんバレーボール in しゅうなん」を新たに開催しており、今後、新たなテーマ型イベントの開催に向け、コンベンション協会をはじめとした関係団体と調整を図っています。
- 会長 もちろん基本目標 4 推進施策 (2)「コンベンション推進事業」の目標指標との連動が図られているのですよね。
- ◇事務局 連動しています。
- 委員 回天に関しては、あえて外されているのですか。
- ◇事務局 回天記念館は観光資源の一つではありますが、大津島の方への配慮と学習施設としての意味合いが強いため、この推進施策「観光交流の促進」の中には含めておりません。
- 委員 回天カレーなど発売されていますよね。
- ◇事務局 回天自体は大切にしていかなないと考えており、行政の立場としては、回天記念館を教育施設としてしっかり継承していきたいと考えております。
- 会長 他にご意見等がないようでしたら評価としてまとめていきたいと思いますが、進捗が遅れている項目もなく、K P I も達成されていますので、「A」評価でよいと考えますがいかがでしょう。
- 委員 主要事業やアクションプランと K P I の連動性が気になります。K P I だけを見ると「A」評価で良いと思いますが、主要事業レベルでは未実施の項目が複数ありますね。
- 会長 平成 27 年度について、計画があるのに未実施であれば問題ですが、予定通り未実施であれば問題ないと思われま。
- 委員 平成 31 年度までに目標の設定が出来ない主要事業も想定できますよね。
- 委員 長期的に見た場合、この短期的な成果が継続するか疑問が残ります。
- 会長 そうしたご意見を踏まえますと、「B」評価として、「平成 31 年度の目標達成に向けた取組状況は必ずしも十分とは言えず、計画の早期実現を目指し、しっかり取り組んでいく必要がある」という意見を付したいと思います。
- 委員 4 段階の評価基準に序列がないとすれば、「B」評価ではなく「C」評価だと思います。

- ◇事務局 「C」評価として、「現在の取組み状況では、未実施の主要事業も多く、今後の効果が期待できない」というご意見をいただければ、今後5年間で市として取り組めない事業を見直し、総合戦略から削除していくことになり、PDCAサイクルを回していく意味があると考えています。
- 会長 委員からご提案のありましたとおり、「C」評価として、今後、効果の発現が期待できないとしてよろしいですか。
- 委員 (全員、異議なし)
- 会長 特に異論がないようですので「C」評価とさせていただきます、「未実施事業の早急な見直しが必要である」という指摘を記述していただきたいと思います。
- 会長 次に、基本目標4推進施策(3)「コンベンションシティの推進」について、事務局から補足説明をお願いします。
- ◇事務局 ～基本目標4(3)について説明～
- 会長 アクションプランが3つありますが、それぞれの進捗状況を計るのは難しいですね。受入体制の強化として、ワンストップサービスに向けた体制づくりがありますが、実際、組織体制なども見直されていますか。
- ◇事務局 正直、コンベンションの推進に関して、組織的に変わったところはないです。
- 会長 ユニークベニューの調査・選定状況はいかがですか。
- ◇事務局 本市は、ビジネスをはじめとしたコンベンションの誘致を図ることにより、交流人口の増加を狙っていますが、地域資源を生かした特別な場所での会議やレセプションを提案するユニークベニューの取組みを進めています。
- 昨年度、調査・選定を行い10カ所ほど周南市版ユニークベニューの指定をしておりますが、今後は、全国コンベンション協会やコンベンション主催者へ提案し、誘致を図っていくこととなります。
- 会長 KPIの「年間観光客数」に対して、この「コンベンションシティ推進事業」がどれだけ寄与しているか判断できないですね。
- 委員 コンベンションシティ推進事業は、年間観光客数を増やすための一つの方策であり、その目標指標が、コンベンションシティ推進事業を計る指標になることに、非常に違和感があります。
- ◇事務局 コンベンションの誘致により、実際に周南市に足を運ぶ人の見込みは算定できますし、その方たちは観光客の一部と捉えることができますので、目標指標が適切でないのかもしれませんが。
- 委員 周南市への流入人口(訪れる人)を増やしたいということですね。
- ◇事務局 そのとおりです。
- 委員 開催したコンベンションの数や規模が分からないと評価できません。
- ◇事務局 確かに、流入人口などを目標としないと、コンベンション誘致の効果が計れないと思います。

- 会長 本年度は仕方がないと思いますので、今後は、コンベンションの開催数や参加者数などの補助データを用意していただければ評価が出来ると思います。
- 会長 アフターコンベンションとは、コンベンション主催者のニーズを把握することですか。
- ◇事務局 アフターコンベンションは、コンベンションのあとの懇親会や宿泊などのことです。
- 会長 アフターコンベンションの実績を把握することは難しいと思いますが、情報発信やPRは行われると思いますので、少なくともアウトプットの把握は出来ると思います。
- ◇事務局 コンベンションの開催実績は、担当課としても把握しておりますが、それを目標値として設定しているかは不明です。
- しかし、今後、評価をいただくうえでも、ご指摘いただいた点を踏まえた目標設定が必要だと考えております。
- 会長 そうしないと、来年度も同じことの繰り返しになってしまいます。
- 会長 以上の点を踏まえて評価をしていくことになりましたが、どのように判断しましょうか。
- 先ほどと同じように、KPIは目標値を達成していますが、年間観光客数の増加にどれだけ寄与しているか、また期待できるのか判断できないため「C」評価とするのはいかがでしょうか。
- ◇事務局 「今の目標設定では、将来的な年間観光客数の増加に寄与するのか判断が困難である」という意見を付すことも出来ます。
- 会長 今、事務局が言われた意見を付したうえで、「C」評価ということではいかがでしょうか。
- 委員 コンベンションに関して効果を測るアンケートを実施してはいかがでしょうか。
- ◇事務局 コンベンションを進めていく上でそうした取組みは必要だと思います。
- コンベンションに取り組み始めた当初は、そうしたアンケートも実施していたと記憶しています。
- 現在、コンベンション開催に対して補助金を出していますので、アンケートのお願いはしていると思いますので、そうした結果も補助データとしてお示しできればと思います。
- 会長 それでは、先ほど事務局が言われた意見を付したうえで、「C」評価としてよろしいでしょうか。
- 委員 (全員、異議なし)
- 会長 それでは次に、基本目標5「地域資源を活用し、快適に暮らすことができるまち」の推進施策(1)「電解コンビナートの資源を生かしたまちづくりの推進」について、事務局から補足説明をお願いします。

◇事務局 ～基本目標 5 (1) について説明～

○会長 主要事業「地域エネルギー導入促進事業」にコンビナート電力の送電設備の整備とありますが、一般家庭までの送電を考えられているのですか。

◇事務局 中心市街地にコンビナートが近接している、またそこで大量の電力が発生している特殊性を生かして、(株)トクヤマが自家発電されている電力のうち、余剰電力を特定供給という方法で新駅ビルや市役所新庁舎などへ安く供給する取組みです。

こうした取組みが出来るのも中心市街地とコンビナートが近接しているという強みによるもので、電力を供給するための自営線の敷設イニシャルコストを抑えることができ、約 10 年での投資回収を見込んでいます。まずは将来的に存続する公共施設に対してしっかりと安価な電力を供給し、その経路内に位置する中心市街地への供給も行うことなどにより企業進出の呼び水とし、街なかの活性化を図っていきたいと考えています。

行政コストとしても、初期投資を 10 年で回収した後は、毎年度 3,100 万円のコスト削減が見込まれ、さらに電力供給を行っていただく企業は、今まで停電をされたことがほとんどないため、災害に強いまちづくりにもつながります。

将来的には、現在の特定供給という方法では出来ませんが、市内の一定地区に対して安価な電力が供給できる仕組みも目指しており、まずは、こうした地元企業と連携したまちづくりに魅力を感じていただき、市外からも人を呼び込みたいと考えております。

○会長 送電設備の整備は、まず市役所新庁舎と新駅ビルを想定しているということですか。

◇事務局 そのとおりです。仮に駅南側であっても、特定供給という範囲内で企業誘致の呼び水にしていきたいと考えております。

○会長 他にご意見がありますか。ご意見がないようでしたら評価をまとめたいと思いますが、まだ構想を練られている段階なので、目標指標の数字に捕らわれず「A」評価で良いと思いますが、いかがでしょうか

●委員 (全員、異議なし)

○会長 それでは次に、基本目標 5 推進施策 (2)「コンパクト・プラス・ネットワークの推進」について、事務局から補足説明をお願いします。

◇事務局 ～基本目標 5 (2) について説明～

○会長 コンパクト・プラス・ネットワークはかなり大きな話ですね。その中でも、現在策定中の立地適正化計画にある居住誘導区域が上手く機能するかが、一つあると思います。

また評価するうえで、K P I の数字で判断していくのは難しいと思いますので、主要事業のアクションプランが、予定通り進んでいるかが大きい判断材料

になると思います。

○会長 公共交通ネットワークの再編には、JRをはじめとした民間企業との連携が不可欠だと思いますが、そのあたりは順調に進められていますか。

◇事務局 実際に、防長交通（株）をはじめとした交通関係機関と、計画策定を含め、ネットワークを構築していく取組みを進めているところですよ。

計画策定が目標ではありませんが、買い物弱者や買い物難民という課題が出ている中で、そうした課題を少しでも解決し、快適に暮らすことが出来るまちに向けて、将来を見据えた計画・地盤をつくっていきたいと考えております。

●委員 公共交通ネットワーク形成事業の目標値はなぜ5年間横ばいなのですか。

◇事務局 人口減少が進む中で、最低限、公共交通利用者を維持していききたいという目標設定になっています。

○会長 どうしても周辺地域から人口が減っていきますから、コンパクト・プラス・ネットワークにつなげていくという狙いですよ。

人口減少が進む中で公共交通の利用者を維持していくことは、つまり、新しい利用者を増やしていくというイメージですよ。

◇事務局 そのとおりです。担当課としても、目標値を維持していく設定としていますが、特に路線バスの存続とそれを有効に機能させることが公共交通ネットワークの最大の目的です。

○会長 他にご意見がありますか。ご意見がないようでしたら評価をまとめたいと思いますが、現時点で、KPIと主要事業との関連性の判断が難しいですね。また、港湾と同じように、コンパクト・プラス・ネットワークは政策的な決定事項だと思いますのでKPIで判断するものでもないような気がします。

◇事務局 そうですね。本市の根幹的なまちづくりの取組みとして、外すことが出来ないという考えで総合戦略に掲載していますが、評価いただくことが難しい施策だとは思っています。

○会長 「A」評価ではないと思いますが、「C」評価になりますかね。

●委員 まだ施策効果が現れていないというか、KPIで中心市街地の居住人口も減っていますが、これだけマンションが建設されていますから、一時的に減っている理由がわかりませんね。

●委員 世帯数は増えているのではないですか。

●委員 世帯数は増えて、人口が減っていますね。

◇事務局 トータルのにはそうした傾向が見受けられます。

●委員 高齢者が単身で移り住んでいるのですか。

◇事務局 それもあるかもしれませんが、核家族化により若者世帯が移り住むということもあります。どちらかというところ、そうした傾向が強いのかもかもしれません。独立して1人暮らしをはじめれば、人口は増えないけど世帯が増えます。

- 会長 「B」評価でも良いかもしれませんがね。コンパクトシティ化は取り組まざるを得ないから、取り組んでいる側面もありますが、本来はそこに効果が期待されるから取り組んでいる訳ですから。
- ◇事務局 効果はすぐに現れないかもしれませんが、今後のまちづくりには必要不可欠な取り組みだと考えています。
- 委員 「B」評価で良いと思います。
- 会長 それでは「B」評価とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
- 委員 (全員、異議なし)
- 会長 それでは次に、基本目標5推進施策(3)「中山間地域の持続可能な生活圏づくり」について、事務局から補足説明をお願いします。
- ◇事務局 ～基本目標5(3)について説明～
- 会長 アクションプランにある地域の夢プランづくりとは、共創プロジェクトとは別物ですか。
- ◇事務局 夢プランとは、各地区コミュニティが抱える課題の解決に向けて、地域自らが計画を策定して、それを行政が支援していくというイメージです。代表的なモデルは大道理地区での、芝桜の観光資源化や地元農産加工グループのお弁当作りです。共創プロジェクトと似通ったところはありますが、行政としては地域に住まわれている方の活躍の場づくりを支援していきたいと考えており、それにより地域に愛着を持つ方や、ここに移り住みたいと思う方を増やしていきたいと考えております。
- 会長 K P I 「新たな地域の拠点施設数」は累計ですか。
- ◇事務局 K P I は累計です。
- 委員 K P I の目標値が、平成30年度まで1件なのは、今から取り組み始めても平成31年度まで完成しないということですか。
- ◇事務局 現在、長穂地区と和田地区の2地区で住民の方が話し合いを進められていますが、自分たちの地域づくりを考えていく中で、最終的に新たな拠点施設にも行き着くとは思われますが、話し合いには時間がかかっています。
- それから考えがまとまり、拠点施設づくりに着手しても、完成までには数年を要することから、拠点施設の姿が見えてくるのは、早くて平成31年度頃だろうと担当課は判断しています。
- ◇事務局 K P I が拠点施設(ハード)ということもあり、完成して初めて目標達成となりますので、平成31年を目標として、現在事業を進めています。
- 会長 他にご意見がありますか。ご意見がないようでしたら評価をまとめたいと思います。他の施策と異なり、K P I や主要事業の目標指標が、一つひとつ重い感じの指標ですから簡単に進むものとは思えませんが、予定通り進捗しているという評価が出来ないことはありません。

そうしたことを踏まえ、目標値の結果を重視すると、「A」評価でも良いのかと思いますが、いかがでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 それでは「A」評価とさせていただきます。

○会長 以上で、全ての推進施策の評価が終わりましたが、全体を通してご意見がありますか。

○会長 来年度は、補助的なデータも提供していただけると評価しやすくなると思います。

◇事務局 行政評価も含めまして、目標設定ということが非常に大切だと考えていますので、補助的なデータを全て表示することは難しいと思いますが、評価に必要なバックデータの的な数値を、将来的には目標指標に出来るように、またご用意できるように努力して参りたいと思います。

○会長 よろしくをお願いします。

それでは、前回会議と本日いただいたご意見は、事務局に議事録としてまとめていただいた後、皆様にご確認いただきますので、修正等ありましたら早めに事務局に申し出ていただければと思います。

最終的に、評価シートにまとめられました評価コメントは、私と副会長が内容を確認したいと考えていますが、ご一任いただいてもよろしいでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

### 3 閉会

○会長 それでは、全ての議事が終了しましたので進行を事務局にお返しします。

◇事務局 長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございますございました。本日が本年度の最後の会議となりますので、政策推進部長がご挨拶申し上げます。

◇部長 皆さま、大変お疲れ様でした。皆さま、お一人お一人が大変お忙しい方ばかりですが、7月に1回目の会議を開催し、また先月、今月と2日間にわたってご審議いただき誠にありがとうございました。

非常に分かりにくい事業が多く、評価いただくことが難しい点多々あったことだと思われませんが、その中で非常に貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。

委員の皆さまからいただきました評価・ご意見につきましては、事務局で整理をさせていただき、会長と副会長にご確認いただいた後に、今後の市の方針と併せて公表させていただきたいと考えております。

また、皆さまからいただいた評価・ご意見を踏まえ、市長の判断のもと、必要に応じまして、主要事業やアクションプランの見直し、総合戦略の修正を考えて参りたいと思います。

本日が本年度最後となりますが、総合戦略はこれから本格化する事業がたくさんございますので、これからも皆様方のお力添えをいただければと思います。  
本当にありがとうございました。

◇事務局 以上をもちまして、「第3回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」を終了いたします。